

目次

解題	1
凡例	3
因府歷年大雜集 第一卷（寛永九年～万治三年）	5
因府歷年大雜集 第二卷（寛文元年～貞享二年）	49
因府歷年大雜集 第三卷（貞享三年～元禄十三年）	117
因府歷年大雜集 第四卷（元禄十四年～享保七年）	161
因府歷年大雜集 第五卷（享保八年～享保二十年）	231
因府歷年大雜集 第六卷（元文元年～寛延三年）	293
因府歷年大雜集 第七卷（宝曆元年～天明三年）	331
因府歷年大雜集 第八卷（天明四年～寛政十年）	383
因府歷年大雜集 第九卷（寛政十一年～文化四年）	417
因府歷年大雜集 第十卷（文化五年～文化九年）	447
因府歷年大雜集 第十一卷（文化十年～文政十二年）	473
因府歷年大雜集 第十二卷（天保元年～天保十二年）	501
因府歷年大雜集 第十三卷（天保十三年～嘉永六年）	527
因府歷年大雜集 第十四卷（補遺一）	563
因府歷年大雜集 第十五卷（補遺二）	609
關係者名簿	638
「因府歷年大雜集」挿図一覧	644

細目次

因府歴年大雑集 第一卷 (寛永九年〜万治三年)

寛永九年 (一六三二)	5
1-1 勝五郎 (池田光仲) 国替の事	
1-2 加藤主膳の殉死を詠じる江山和尚の詩	
1-3 池田忠雄痘瘡の事	
1-4 備前国清泰院の事	
1-5 池田忠継の遺骨盗難に遭う事	
1-6 備前国清泰院清泰院君龍峯寺君御廟惣図	
1-7 芳春院墓所の事	
1-8 荒尾志摩嵩就忠誠の事	
1-9 国替の年大風の事	
1-10 大明漳州の商船当国へ漂い來たる事	
1-11 国替の時重臣の下屋敷間教書上	
1-12 国替の年侍帳	
1-13 国替の年新屋敷割の覚	
1-14 国替につき引越費用として下さるる銀子の覚	
1-15 津田豊後・渡辺数馬不参の事	
1-16 清泰院 (池田忠雄) と高浜十兵衛の事	
寛永十年 (一六三三)	13
1-17 藤岡六左衛門村瀬新助を斬殺する事	
1-18 新屋敷衆へ銀子遣わさるる覚	
1-19 津田豊後へ帰参を勧める書状	
1-20 津田豊後・渡辺数馬へ渡さるる銀子の覚	
寛永十一年 (一六三四)	14
1-21 伊賀越えの仇討ちの事	
寛永十二年 (一六三五)	15
1-22 国中大洪水の事	
寛永十三年 (一六三六)	17
1-23 鶴殿大隅守長次卒去の事	
寛永十四年 (一六三七)	17
1-24 佐分利九之丞島原天草一揆で討死の事	
1-25 大坂卯年図	
寛永十五年 (一六三八)	18
1-26 会見郡車尾村新田牢人衆の事	
1-27 米子町人大谷・村川竹島渡海の事	
1-28 渡辺数馬・荒木又右衛門の迎えに横目を遣わす事	
寛永十六年 (一六三九)	21
1-29 後藤又兵衛の子孫の事	
寛永十七年 (一六四〇)	22
1-30 松平石見守輝澄領地没収の事	
1-31 ガレウタ船渡海禁止の事	
寛永十八年 (一六四一)	23
1-32 会見郡車尾村牢人等年貢米の事	
1-33 「寛永諸家系図伝」編纂の事	
1-34 御初入御家中の御礼組持の次第	
寛永十九年 (一六四二) *記事なし	25
寛永二十年 (一六四三)	25
1-35 天下大飢饉の事	
1-36 諸国巡見使の事	
1-37 家中馬改めを仰せ出さるる事	
正保元年 (一六四四)	25
1-38 興禅院 (池田光仲) 豆州熱海入湯の事	
正保二年 (一六四五)	26
1-39 興禅院 (池田光仲) 婚礼の次第	
正保三年 (一六四六) *記事なし	27
正保四年 (一六四七)	27
1-40 証人を差し出す書付の事	
1-41 石入公 (池田輝澄) 姫君の墓	
慶安元年 (一六四八)	29
1-42 清源寺 (池田綱清) 初轍の事	
1-43 殿様 (池田光仲) 初入国の事	
1-44 東照宮勸請許可の奉書	
1-45 御制度の条々	
1-46 若党衣類等につき覚	
1-47 在中御制度の抜粹	
1-48 本丸で盃頂戴の次第	
1-49 惣支配持口の事	

慶安二年 (一六四九)	1-50 東照宮造営の事	32
	1-51 浅田多右衛門長刀を帯する事	
	1-52 東照宮普請の石切の事	
慶安三年 (一六五〇)	1-53 東照宮遷宮の事	33
	1-54 東照宮への寄進物の次第	
	1-55 東照宮の神馬行衛不明となる事	
慶安四年 (一六五一)	1-56 石入 (池田輝澄) 夫人卒去の事	35
	1-57 由井正雪の謀叛露現の事	
承応元年 (一六五二)	1-58 東照宮祭礼の事	36
	1-59 御当家御軍式の事	
	1-60 北村三之丞伯父の仇を討つ事	
	1-61 倉吉勝入寺の住持大坂で乱心の事	
承応二年 (一六五三)	1-62 叶の大曲りの由来	38
	1-63 松神社所蔵の旗・幕の事	
承応三年 (一六五四)	1-64 内裏普請助力の奉書	38
	1-65 隠元禪師渡来、龍峯寺改宗の事	
明暦元年 (一六五五)	*記事なし	39
明暦二年 (一六五六)	1-66 龍峯寺の鐘銘	39
	1-67 寄合場法度	
	1-68 御奏者披露の面々	
	1-69 良正院の御輿を慶安寺へ納める事	
	1-70 寄合場法度	
明暦三年 (一六五七)	1-71 汗入郡西坪村へ唐船の水取船漂着の事	40
	1-72 大坂城普請の残石	
	1-73 明暦の大火の事	
	1-74 火事装束の事	
	1-75 足袋の事	

万治元年 (一六五八)	1-76 相模守 (池田光仲) 帰国につき船借用の覚	44
	1-77 改易の子供衆御目見の事	
万治二年 (一六五九)	1-78 池田綱清着初の事	45
	1-79 孝勝院逝去の事	
万治三年 (一六六〇)	1-80 家中御制度	46
	1-81 家中儉約の覚	
	1-82 玄忠寺火事の事	
	1-83 田中春杏出精の事	
	1-84 東館へ分知の石高の事	
	1-85 某の退役聞き届け難き事	
因府歴年大雑集 第二卷 (寛文元年〜貞享二年)		
寛文元年 (一六六一)	2-1 新五郎 (池田綱清) 任官の事	49
	2-2 寄合組の由来	
寛文二年 (一六六二)	2-3 池田光仲へ御預けの旗本都築弥左衛門の事	49
	2-4 伴九郎兵衛子分に亀之助を遣わさるる事	
	2-5 家中不如意につき申し達し	
	2-6 大旱につき雨乞いの事	
	2-7 都築弥左衛門屋敷番へ申し付ける書付	
	2-8 石入 (池田輝澄) 屋敷の旧跡の事	
	2-9 池田輝澄と子息の事	
寛文三年 (一六六三)	2-10 普請奉行の人数の事	53
	2-11 石入 (池田輝澄) 居館の事	
	2-12 殉死制禁の覚	
寛文四年 (一六六四)	2-13 赤穂藩士岡部新助智頭郡で難に逢う事	53
	2-14 城中喧嘩口論につき御制度	
	2-15 家来追放・斬罪につき御制度	
	2-16 出仕日連人の覚	

2-17 奉公人の届け出につき覚
2-18 侍中衣類の覚

2-19 池田光仲、徳川家綱より領知判物を賜る事

2-20 異国船取り扱いの事

2-21 松平相模守(池田光仲)証人の事

2-22 御両国で血判改め始まる事

2-23 制札残らず書き直しの事

2-24 建部半弥病気につき知行を倅へ遣わさるる事

寛文五年(一六六五)

2-25 東照宮(徳川家康)五十回忌につき証人赦免の事

2-26 証人上の家々の事

2-27 馬の所持につき口上の覚

2-28 赤穂藩士岡部新助智頭郡で難に逢う事

寛文六年(一六六六)

2-29 京極丹後守(高国)領地没収の事

2-30 山住源右衛門・宮田吉左衛門へ申し渡す覚

2-31 高浜権右衛門西田古左衛門を討ち果たす事

2-32 御膳奉行の支配の事

2-33 山鹿甚五左衛門(素行)播州赤穂へ御預けとなる事

2-34 南部越後・唯正睡寺の事

2-35 大橋十右衛門津山城下で家来を手討にする事

2-36 御城御番所鉄炮の者共に申し渡す覚

寛文七年(一六六七)

2-37 米子町人大屋九右衛門船朝鮮に漂着する事

2-38 町方諸職人手問賃等につき達

2-39 妙心寺壁書

2-40 諸国巡見使の事

2-41 米子町人村川市兵衛船朝鮮に漂着する事

寛文八年(一六六八)

2-42 家中衣類等につき覚

2-43 諸事儉約を仰せ出さるる事

2-44 江戸芝金杉船入普請の事

2-45 龍峯寺隠居提宗和尚遷化の事

2-46 江戸大火の事

2-47 渡辺八右衛門苗字を美田と改める事

69

66

60

56

2-48 新規に長柄の者を抱える事
寛文九年(一六六九)

2-49 池田綱清巡国の事

2-50 不受不施派禁制の覚

寛文十年(一六七〇)

2-51 式姫(長源院)入興の時供の女中

2-52 横河次太夫御暇の事

2-53 国府一ノ宮旧園

寛文十一年(一六七一)

2-54 詫間八太夫若党旗本に斬られる事

2-55 佐枝源兵衛切腹の事

2-56 吉利支丹宗門改めの事

2-57 都築弥左衛門江戸道中法度

2-58 詫間八太夫帰国道中法度

2-59 吉利支丹宗門改めの事

寛文十二年(一六七二)

2-60 壱岐守(池田仲澄)御徒等不法法の事

2-61 興禅寺の弟子寺中に付火の事

2-62 松平新太郎(池田光政)隠居の事

2-63 鹿野街道橋向町筋の溝に懸出を作る事

2-64 壱岐守(池田仲澄)御徒等不法法の事

2-65 壱岐守(池田仲澄)登城の事

延宝元年(一六七三)

2-66 国中大洪水の事

2-67 塩川勘十郎纒頂戴の事

2-68 奉公人出替につき触

2-69 永井太郎兵衛倅を掃除坊主に召し出さるる事

2-70 三月八日御首途の事

2-71 宅間八太夫年頭御札に登城の事

2-72 移住者に遣わす屋敷に関する定

2-73 伯州(池田綱清)在国時の勤務形態の事

延宝二年(一六七四)

2-74 隠元禪師遷化の事

延宝三年(一六七五)

2-75 延宝年間の武鑑

86

86

84

82

76

75

74

2-76	在郷入・居在郷の覚	
2-77	荒尾修理・志摩、公儀へ御目見を願う事	
延宝四年(一六七六).....		87
2-78	延宝札発行の事	
2-79	延宝四年江戸絵図	
2-80	御両国札遣いにつき仰せ出さるる事	
2-81	贖札取り締まりにつき仰せ出さるる事	
延宝五年(一六七七).....		89
2-82	正月廿日穩便の触	
2-83	屋敷廻りの堀の管理につき覚	
2-84	家中役につき触	
2-85	智頭海道で刃傷沙汰の事	
2-86	池田光仲湖山池で追鳥狩りを御覧の事	
2-87	江戸留守居・辻番に押込を仰せ渡さるる事	
2-88	宗門改め日限の事	
2-89	袋川水涸の事	
延宝六年(一六七八).....		91
2-90	江戸城年頭御礼の事	
2-91	儲君御登營御能拜見御座席之図	
2-92	銀札三種廃止につき覚	
2-93	札御借年数覚	
2-94	銀札借用御礼につき触	
2-95	伯州(池田綱清)鷹の雲雀拝領の事	
2-96	大久保和泉守(正朝)死去の事	
2-97	奉公人寺請け等につき触	
2-98	袋川御法度覚	
2-99	惣廻り間数取り調べにつき触	
2-100	女院薨去につき穩便の事	
2-101	先祖法事につき触	
2-102	御宮の護摩堂所替えの事	
2-103	河毛十右衛門、大久保和泉守(正朝)の道中付添を勤める事	
延宝七年(一六七九).....		93
2-104	検使村上彦太郎参着の事	
2-105	荒尾修理・池田大蔵卒去の事	
2-106	荒尾玄蕃金子一万兩献上の事	

2-107	札売買等につき町奉行へ仰せ渡さるる事	
延宝八年(一六八〇).....		94
2-108	奉公人寺請け等につき触	
2-109	和田次郎左衛門自殺の事	
2-110	三匁札廃止につき触	
2-111	札上げ米返付の事	
2-112	「平井権八一代記」をめぐる問答	
2-113	羽生郷右衛門の事	
2-114	京極丹後守(高国)嫡子赦免の事	
2-115	俄兵星出現の事	
2-116	代替りにつき諸大名へ仰せ付けらるる起請文前書	
2-117	御一門・国持大名衆等へ火消役を仰せ付けらるる事	
2-118	落合奎之助の処遇について幕府へ問い合わせの事	
天和元年(一六八一).....		98
2-119	広田喜右衛門荒尾但馬御預けとなる事	
2-120	家中物成一つ成借上の事	
2-121	物頭書上	
天和二年(一六八二).....		99
2-122	江戸より帰国時の土産等につき仰せ出さるる事	
2-123	小山田弥一郎穿鑿の事	
2-124	將軍宣下の祝儀として老中招請の事	
2-125	但州村岡敵討の事	
2-126	野間彦兵衛下人に殺害される事	
2-127	家中物成一つ成借上の事	
2-128	深尾角馬切腹の事	
2-129	旗本佐久間源兵衛兄弟御当家当家へ御預けの事	
2-130	「貞享諸家書付」編纂につき口上覚	
2-131	御出駕につき触	
2-132	但州村岡敵討の事	
2-133	安部某喧嘩の事	
2-134	深尾覚馬切腹につき池田光仲落涙の事	
2-135	河毛十右衛門、旗本佐久間源兵衛兄弟の道中付添人を勤める事	
天和三年(一六八三).....		107
2-136	癸亥江戸鑑	
2-137	龍峯寺夢隠禪師追院の事	

2-138	宮田藤右衛門、相州小田原で熊沢弥三右衛門と討ち果たす事	
2-139	大坂新川普請の事	
2-140	来春の家中物成につき申し渡し	
2-141	上野厚恩院日心の言説	
2-142	千石次右衛門切腹の事	
貞享元年(一六八四).....		109
2-143	府君(池田光仲)瘧疾を煩う事	
2-144	宮脇得兵衛公事の事	
2-145	荒尾但馬に男子出生の事	
2-146	池田光仲在国につき池田綱清領知判物を賜る事	
2-147	木戸弥二右衛門追放の事	
2-148	「貞享諸家書付」編纂につき口上覚	
2-149	安井算哲天文方仰せ付けらるる事	
2-150	御用人秋田仁兵衛退役の事	
貞享二年(一六八五).....		113
2-151	借上の家中物成一つ成返付につき覚	
2-152	鳥取城山の東より光物出現の事	
2-153	東館江戸屋敷普請の事	
2-154	虚堂墨蹟の事	
2-155	佐分利九允御暇を願う事	

因府歴年大雑集 第三卷(貞享三年〜元禄十三年)

貞享三年(一六八六).....		117
3-1	池田光仲隠居の事	
3-2	美田軍左衛門、渡辺数馬筋目相続の事	
貞享四年(一六八七).....		117
3-3	池田綱清家督相続の事	
3-4	長吉(池田吉泰)誕生の事	
3-5	長吉(池田吉泰)七夜の祝の事	
3-6	長吉(池田吉泰)宮参りの事	
3-7	諸国鉄炮改めの事	
元禄元年(一六八八).....		118
3-8	池田光仲鶴拝領の事	
3-9	勸進相撲興行の事	
3-10	勸進相撲の由来	

3-11	喜見山摩尼寺の鐘銘	
3-12	興禅院(池田光仲)鶴拝領の事	
元禄二年(一六八九).....		120
3-13	諸士の面々判物を賜る事	
3-14	府君(池田綱清)若桜へ巡見の事	
3-15	御前様(芳心院)池上本門寺へ御仏詣の事	
3-16	気多郡で請免始まる事	
3-17	二月廿七日御首途の事	
3-18	三浦形馬、郡代津田将監相役を仰せ付けらるる事	
3-19	辻晚庵へ小袖を遣わさるる事	
3-20	初めて御当家が火消役を勤める事	
元禄三年(一六九〇).....		122
3-21	服部庄兵衛切腹の事	
3-22	鉄炮取り締まりの事	
元禄四年(一六九一).....		123
3-23	池田図書政広入道死去の事	
3-24	江戸知足院火消し番を命ぜらるる事	
3-25	加賀内蔵之助、香河内膳と改名の事	
3-26	小泉友賢死去の事	
3-27	馬廻りの諸士城番御免の事	
3-28	送迎の場所につき仰せ出さるる事	
元禄五年(一六九二).....		126
3-29	米子町人大屋九右衛門、磯竹島から朝鮮人を連れ帰る事	
3-30	乾甲斐室密通露頭の事	
3-31	落雷のため天守焼失の事	
3-32	龍峯寺改派につき妙心寺よりの願書	
3-33	天野織部・箕浦蔵人、天守焼失の際出精の事	
3-34	了春院墓碑の図	
3-35	乾甲斐退職の事	
元禄六年(一六九三).....		128
3-36	米子町人大谷九右衛門が連れ帰る朝鮮人鳥取へ参着の事	
3-37	龍峯寺改派につき妙心寺へ回答の事	
3-38	池田光仲逝去の事	
3-39	鉄牛和尚の事	
3-40	仮殿河原御棺場の事	

元禄七年(一六九四)

- 3-41 龍峯寺一件につき妙心寺より江戸寺社奉行への書付
- 3-42 米子町人大谷九右衛門が連れ帰る朝鮮人の事
- 3-43 龍峯寺一件落着の事
- 3-44 御廟所は奥谷に決まる事
- 3-45 米子より朝鮮人移送につき仰せ出さるる事
- 3-46 袋川用水につき触

137

元禄八年(一六九五)

- 3-47 富山政右衛門切腹の事
- 3-48 雲山で勸進相撲興行の事
- 3-49 上野忠親の生没年の事
- 3-50 奥源太郎、智頭郡用ヶ瀬から奥谷へ大石を曳く事
- 3-51 奥谷御廟所御番所法度書の事
- 3-52 長寿院古跡を菩提所に取立の事
- 3-53 奥谷御廟所御番所法度書の事

138

元禄九年(一六九六)

- 3-54 本多飛驒守(重益)を壹岐守(池田仲澄)へ御預けの事
- 3-55 清源寺(池田綱清)少将に昇進の事
- 3-56 円城院出火の事
- 3-57 本多飛驒守(重益)御預かりの節道中法度書
- 3-58 検見改狂歌

140

元禄十年(一六九七)

- 3-69 池田万之助出駕につき道中法度
- 3-68 馬廻りへ見廻りを仰せ付けらるる事
- 3-67 山部弥五右衛門御暇の事
- 3-66 在方で請免始まる事
- 3-65 佐橋助太夫・植村又太夫閉門の事
- 3-64 南條喜右衛門の事
- 3-63 朝鮮国の使者来訪の事
- 3-62 永井太郎兵衛へ合力米を遣わさるる事
- 3-61 池田権之助政撫の事
- 3-60 竹島渡海禁止となる事
- 3-59 清源寺(池田綱清)、徳川綱吉の講釈を拝聴の事

146

- 3-70 芳心院徳川綱吉に御目見の事
- 3-71 京都妙心寺へ龍峯寺を返付する事

元禄十一年(一六九八)

- 3-72 作州津山城主森美作守卒去の事
- 3-73 物頭十五人御暇の事
- 3-74 法美郡卯垣村の屋敷、鉄炮洲家の御茶屋となる事
- 3-75 秋田仁兵衛、三度御用人を仰せ付けらるる事
- 3-76 物頭惣名前
- 3-77 物頭十五人御暇の事
- 3-78 智頭宿放火の賊を火刑に処す事
- 3-79 関甚左衛門の事
- 3-80 河嶋勘解由死去の事
- 3-81 永井太郎兵衛御本家へ雇われる事
- 3-82 奥谷清源寺の山号光仲山となる事
- 3-83 羽原伝五兵衛、万々御吟味役を仰せ付けらるる事

153

元禄十二年(一六九九)

- 3-84 南部御前長源院遠行の事
- 3-85 元禄の貨幣改鑄の事
- 3-86 天野源四郎魚売を打擲する事
- 3-87 切支丹類族死去の事
- 3-88 格式につき落合空之助願いの事
- 3-89 網清夫人長源院逝去の事
- 3-90 暑気伺いとして申海鼠献上の事
- 3-91 寒中伺い月次の通りの事
- 3-92 来年の参勤につき伺い
- 3-93 黒田監物退役の事
- 3-94 壹岐守(池田仲澄)相州塔ノ沢へ入湯の事
- 3-95 御簡略改めにつき覚

157

元禄十三年(一七〇〇)

- 3-96 京極対馬守(高規)、落合空之助を養子に願う事
- 3-97 池田輝清(吉泰)甲冑召初の事
- 3-98 遊行上人真教寺へ逗留の事
- 3-99 池田綱清隠居、西館設立の事
- 3-100 松平勝五郎(池田吉泰)元服の事
- 3-101 米村所平は郡奉行の事
- 3-102 家督相続・隠居・分知の御札の事

158

因府歴年大雑集 第四卷 (元禄十四年〜享保七年)

元禄十四年 (一七〇二) 161

4-1 播磨万歳の事

4-2 加賀前田家と縁組の由来

4-3 伯州会见郡の百姓の妻、一身両頭の女子を産む事

4-4 赤池河原刑罰場の事

4-5 出火の節の覚

4-6 山田七郎右衛門次男欠落の事

4-7 荒尾長門重就・荒尾修理成紹加増の事

4-8 伴九郎兵衛物領伊之助・萩田兵太夫悴藤兵衛壱州 (池田仲澄) 駕籠者と喧嘩の事

4-9 祭礼の節、寺社奉行・町奉行も包傘御免となる事

4-10 国府一宮の蓮池を田地とする事

4-11 落合奎之助の事

4-12 天球院へ龍峯寺住職を仰せ付けらるる事

元禄十五年 (一七〇三) 165

4-13 伯州会见郡の百姓の妻、一身両頭の女子を産む事

4-14 古海河原で勸進相撲興行の事

4-15 大坂堀江で勸進相撲興行の事

4-16 落合久之丞手討の事

4-17 米子城下等洪水の事

4-18 加賀守 (前田綱紀) 屋敷で講釈の事

元禄十六年 (一七〇四) 168

4-19 原田杏庵遠慮の事

4-20 江戸城手伝普請の事

4-21 普請巧者大竹甚五兵衛召抱の事

4-22 江戸大地震の事

宝永元年 (一七〇四) 170

4-23 書院番溝口源左衛門江戸城石垣の下敷きになる事

4-24 江戸城普請のため納金を仰せ付けらるる事

4-25 山部某遠慮の事

宝永二年 (一七〇五) 170

4-26 本郷和多利御使番を仰せ付けらるる事

4-27 大森町多田嘉七郎畑屋敷の番人殺害される事

4-28 津田将監・米村所平確執の事

4-29 伊勢参宮流行の事

宝永三年 (一七〇六) 172

4-30 御見小姓に関する定

4-31 宝永丁銀の事

4-32 惣堀筋・惣土手廻りの管理につき触

4-33 三徳山で仏像等を掘り出す事

4-34 米村所平御役御免の事

4-35 東館御家人羽田忠左衛門の礼席の事

宝永四年 (一七〇七) 174

4-36 富士山噴火の事

4-37 諸国銀札通用停止を仰せ出さるる事

4-38 羽田要人元服、寄合組を仰せ付けらるる事

4-39 富士山噴火の事

4-40 大殿様 (池田綱清) 還暦の事

宝永五年 (一七〇八) 175

4-41 宝永の貨幣改鑄の事

4-42 敬姫入輿の事

4-43 上銀を仰せ出さるる事

4-44 両国梶之助死去の事

4-45 宮脇平五郎等跡式仰せ出さるる事

4-46 摩尼山奥の院出開帳の事

4-47 河村郡松崎町大火の事

4-48 大殿様 (池田綱清) 不例の事

4-49 宅間清入、高田権九郎を養子に仰せ付けらるる事

4-50 諸国高役金上納を仰せ出さるる事

4-51 不勝手につき御簡略を仰せ出さるる事

宝永六年 (一七〇九) 182

4-52 参勤御礼・帰国暇御礼の事

4-53 河毛次郎兵衛・萩田藤兵衛斬り合いの事

4-54 造酒正 (池田澄古) に御預けの本多飛騨守 (重益) 御免の事

4-55 芳心院の遺骨を正福寺に納める事

4-56 豊姫松平修理大夫 (蜂須賀吉武) へ入輿の事

4-57 宝字銀通用を仰せ出さるる事

4-58 豊姫女中の事

4-59 河内守 (池田清定) 松平姓を許される事

宝永七年(一七二〇).....185

- 4-60 六月四日大霰降る事
- 4-61 河毛・萩田一件の裁許
- 4-62 伴左五兵衛宅へ狼藉者ある事
- 4-63 八月十一日大地震の事
- 4-64 納市右衛門家来打首の事
- 4-65 萩田若党加納源蔵を討ち取った面々遠慮御免の事
- 4-66 宝永蔵の由来
- 4-67 河毛・萩田一件落着の事
- 4-68 金の改鑄を仰せ出さるる事
- 4-69 公儀向きの勤めにつき諸大名留守居へ仰せ出さるる事

正徳元年(一七一〇).....189

- 4-70 岩井郡浜大谷村の沢が鳴る事
- 4-71 二月五日の月の事
- 4-72 国府一宮鳴動、岩井郡浦富で異魚を捕る事
- 4-73 大小姓廃止の事
- 4-74 天守の松に落雷の事
- 4-75 大殿様(池田綱清)逝去の事
- 4-76 早追使者西村元右衛門自刃の事
- 4-77 矢野兵庫、隠居して白頭と称する事
- 4-78 池田綱清出棺につき触
- 4-79 真教寺火事の事
- 4-80 鵜殿長春の祭文

正徳二年(一七一〇).....193

- 4-81 麩屋火事の事
- 4-82 天祥院(池田吉泰)若桜へ逗留の事
- 4-83 大坂銀主鴻池等へ馳走の事
- 4-84 大隣寺禅堂焼亡の事
- 4-85 先代に吹替の悪幣を停止の事
- 4-86 家中物成三つ免となる事
- 4-87 天祥院(池田吉泰)若桜へ逗留の事
- 4-88 麩屋火事の事

正徳三年(一七二三).....195

- 4-89 矢野兵庫自殺の事
- 4-90 江戸上屋敷拡張の事

正徳四年(一七二四).....196

- 4-91 真綿・絹袖等生産奨励の触
- 4-92 役銀算用の事
- 4-93 国府一宮正一位加階の宣命の奥書
- 4-94 江戸の門札の事
- 4-95 河内守(池田清定)元旦詩歌
- 4-96 米村所平御役御免の事
- 4-97 山岡市允の御役御免に寄せる狂歌
- 4-98 貨幣改鑄につき触

正徳五年(一七二五).....199

- 4-99 家中の衣類につき触
- 4-100 諸色高直につき触
- 4-101 荒尾志摩家来安井万之丞、三田屋七郎右衛門を奸殺する事
- 4-102 浄土宗僧侶と日蓮宗徒諍いの事
- 4-103 気多郡酒津村の長兵衛百七歳で死去の事
- 4-104 法美郡玉鉾村幽芳寺建立の由来
- 4-105 隠岐左吉の事

享保元年(一七一六).....202

- 4-106 池田新蔵逝去の事
- 4-107 吉明(池田吉泰)帰国、河内守(池田清定)屋敷に居住の事
- 4-108 生田多四郎不作廻の事

享保二年(一七二七).....203

- 4-109 乾安房知長卒去の事
- 4-110 日野郡百姓一揆民来記
- 4-111 久米郡惣百姓歎願の覚
- 4-112 因幡のいの字揃
- 4-113 長吉(池田宗泰)誕生、鳥取城下に伯州の百姓群集の事
- 4-114 高草郡古海村八幡宮の社司、霊夢により槌を掘り出す事
- 4-115 土手筋改めを仰せ出さるる事
- 4-116 米村所左衛門へ郡代を仰せ付けらるる事

享保三年(一七二八).....207

- 4-117 鵜殿長春の祭文
- 4-118 鵜殿大隅長春の事
- 4-119 河内守清定急養子を願う事
- 4-120 河内守(池田清定)逝去、妙紹大師(上野厚恩院)夢物語の事

4-121	豊前守（池田仲央）芝屋敷に転居の事	
4-122	河内弥惣兵衛秀正死去の事	
享保四年（一七一九）		211

4-123	気多郡山田村雲昌寺より壺を掘り出す事	
4-124	仙石連乱心して刃傷沙汰に及ぶ事	
4-125	江戸への飛脚、状箱を紛失する事	
4-126	大山寺領の朱印状江戸より到来の事	
4-127	改名に関する定	
享保五年（一七二〇）		213

4-128	若桜町からかさ屋方の竹に歌がみえる事	
4-129	妙光院の薬師古海で出開帳の事	
4-130	石黒火事の事	
4-131	家中物成二つ成となる事	
4-132	石黒火事の事	
4-133	池田澄古の書状	
4-134	松平加賀守（前田綱紀）の見舞状	
4-135	荒尾左門家老職を仰せ付けらるる事	
4-136	佐分利の石門の由来	
4-137	御使番仲間困窮につき人馬減少を願う事	
享保六年（一七二一）		222

4-138	荒尾伊豆退去の事	
4-139	領内人口の事	
4-140	荒尾伊豆御暇の事	
4-141	普請奉行長谷川平蔵退役の事	
4-142	横河次太夫、伝来の感状を持参し御目見の事	
4-143	妙紹大師（上野厚恩院）病中談話、没後遺言申し置かるる事	
享保七年（一七二二）		225

4-144	幕府の香典十分の一となる事	
4-145	東館鉄炮洲屋敷と金森出雲守（頼時）下屋敷を相對替の事	
4-146	妙紹大師（上野厚恩院）末期の行実並びに歎徳の事	
4-147	参勤交代緩和の事	
4-148	家中物成返付なき旨を仰せ出さるる事	
4-149	御目付加藤金右衛門御暇を願う事	

因府歴年大雑集 第五卷（享保八年〜享保二十年）		
享保八年（一七二三）		231

5-1	池田伊織出府、東館三田屋敷普請成就の事	
5-2	池田頼母知定卒去の事	
5-3	御組の面々判物の写を差し出す事	
享保九年（一七二四）		232

5-4	二月廿一日大風の事	
5-5	黒川火事の事	
5-6	吉野東南院の出開帳に関する落書	
5-7	江戸大火の事	
5-8	拝領の鶴到来の事	
5-9	早河八兵衛乱心の事	
5-10	諸式値段高騰につき触	
5-11	荒尾但馬家来の殺生人逐電の事	
5-12	妾を妻とする事につき仰せ出さるる事	
5-13	山田李隠居の事	
5-14	町堺に木戸を建てたる事	
5-15	登城の面々黒川火事での働きを賞される事	
享保十年（一七二五）		237

5-16	米村所平へ勝手作廻を仰せ付けらるる事	
5-17	米村広治郡代再勤の節百姓を教誨の文	
5-18	裏判役多田嘉七郎へ御尋の事	
5-19	法美郡神垣村山崩の事	
5-20	八上郡散岐郷豪雨の事	
5-21	高草郡加路村に洪波が打ち寄せる事	
5-22	岩井郡田尻村の漁夫、雲州の漂流民を助ける事	
5-23	元禄大判の吹き直しを仰せ出さるる事	
5-24	来年より三年間家中物成五歩通り借上を仰せ出さるる事	
5-25	津田周防組山根嘉左衛門・村山文左衛門困窮につき願	
5-26	家中諸借銀無利十年賦等仰せ出さるる事	
5-27	衣類・音信贈答の儉約を仰せ出さるる事	
5-28	加藤主膳組中勝手難儀につき願	
5-29	家中衣類・音信贈答の儉約を仰せ出さるる事	
5-30	初野才兵衛へ東館御附人を仰せ付けらるる事	
享保十一年（一七二六）		246

5-31	四月十一日晝大火の事	252
5-32	高草郡江津村の漁民山椒魚に似る異魚を捕る事	
5-33	享保十一年四月十日夜大火ノ凶	
5-34	拝領の鶴に関する騒動	
5-35	湖山川掘替普請の事	
5-36	多田嘉七郎永の暇を願う事	
5-37	米村広治退願文言	
5-38	在中商人増加につき触	
5-39	衣類につき仰せ出さるる事	
5-40	町方困窮につき借銀・質入を五年賦の返済とする事	
5-41	会見郡尾高村の堤決壊の事	
享保十二年(一七二七).....		252
5-42	帳屋火事の事	
5-43	在御吟味役・御郡奉行役儀御免の事	
5-44	諸事儉約の触	
5-45	九月十七日火事の事	
5-46	御前様(宝林院)への合力米断りの事	
5-47	丸山の川筋に男子の水死体ある事	
5-48	御堀に老婦の溺死体ある事	
5-49	米村広治御役御免の事	
享保十三年(一七二八).....		256
5-50	養子跡目等につき新法仰せ出さるる事	
5-51	団友右衛門の悪事露頭の事	
5-52	御徒榎本善藏、不義の妻を手掛け自刃の事	
5-53	博奕制禁を仰せ出され欠落等続出の事	
5-54	荒尾志摩恕心卒去、養子式部家督相続の事	
5-55	家中へ申し渡す法度	
享保十四年(一七二九).....		261
5-56	池田吉泰相模守を受領の事	
5-57	御目付沢九郎右衛門の家臣乱心して若党を殺害する事	
5-58	伯州会見郡の灘で鯨を捕る事	
5-59	江戸八代洲河岸上屋敷へ牽き来たる大象の事	
5-60	鳥取城下洪水の事	
5-61	山根庄左衛門仙参の途に酔狂人を手討にする事	
5-62	洪水のため家中物成の返付困難の事	

5-63	輝泰(池田宗泰) 甲冑召初の事	271
5-64	享保武鑑写	
5-65	高草郡上原村の女が狐の子を産む事	
5-66	借金銀・質物利金につき仰せ出さるる事	
5-67	衣類・音信贈答の儉約を仰せ出さるる事	
5-68	御簡略を仰せ出さるる事	
5-69	乾字金再び通用を仰せ出さるる事	
享保十五年(一七三〇).....		271
5-70	六月朔日日蝕の事	
5-71	乾字金再び通用を仰せ出さるる事	
5-72	家中物成一損三步借上を仰せ出さるる事	
5-73	衣類・音信贈答等儉約を仰せ出さるる事	
5-74	江戸上屋敷御目付磯部次郎右衛門、同役大野孫平を斬り倒す事	
5-75	家中物成借上により困窮につき組頭衆歎訴の事	
5-76	御判物頂戴の事	
享保十六年(一七三一).....		276
5-77	勝五郎(池田宗泰) 初登宮等の事	
5-78	享保札発行の事	
5-79	高草郡加路村東禅寺の住侶奸計露頭の事	
5-80	若殿様(池田宗泰) 元服の次第	
5-81	江戸の火消につき仰せ出さるる事	
5-82	江戸詰の面々へ仰せ出さるる事	
5-83	米村所平・寺嶋帯刀、仲間と不和の事	
享保十七年(一七三二).....		279
5-84	不審者及び火元取り締まりの触	
5-85	近江守(池田定賢) 屋敷の長屋より出火の事	
5-86	池田豊後家老職御免、在方長役等閉門の事	
5-87	大凶年につき上下困窮、大坂の銀主出銀を断る事	
5-88	松井番右衛門へ郡代を仰せ付けらるる事	
5-89	凶年につき土岐丹後守(頼稔) 口上の覚	
5-90	竹内林次郎、百姓蜂起の鎮圧に活躍の事	
享保十八年(一七三三).....		281
5-91	御貸札発行の事	
5-92	興禅寺寂潭和尚遷化の事	
5-93	家中物成一損三步返付等仰せ出さるる事	

5-94 御貸札の制度
享保十九年(一七三四).....285

5-95 山岡中務の次男を江州石山寺世尊院の後住とする事
5-96 御貸札につき仰せ出さるる事
5-97 享保十九年武鑑写
5-98 質札・御貸札等につき仰せ出さるる事
5-99 銀札引替再開等仰せ出さるる事
5-100 龍峯寺、護国院(池田信輝)の位牌安置を願う事
享保二十年(一七三五).....289

5-101 城内の金蔵に盗人忍び入る事
5-102 長田火事の事
5-103 有田六右衛門の妻不義の事
5-104 奥田助次郎江戸屋敷で乱心の事
5-105 銀札引替につき仰せ出さるる事
5-106 江戸・大坂の米値段につき触

因府歴年大雑集 第六卷(元文元年〜寛延三年)
元文元年(一七三六).....293

6-1 元文の貨幣改鑄の事
元文二年(一七三七).....294

6-2 撰津守(池田仲央)附人坂田次太夫の事
6-3 米村所平へ郡代元締役兼帯を仰せ付けらるる事
6-4 渡辺藤左衛門、智頭郡用ヶ瀬で酒狂の事
6-5 撰津守(池田仲央)御道具某、江戸伊皿子にて喧嘩の事
6-6 野崎助右衛門乱心の事
元文三年(一七三八).....295

6-7 作州出水、殿様(池田吉泰)帰国難儀の事
6-8 御側御用人山下采女等閉門の事
6-9 在宅侍中の農作禁止の事
元文四年(一七三九).....296

6-10 二月百姓一揆の事
6-11 百姓中の願書
6-12 米村所平等閉門の事
6-13 殿様(池田宗泰)家督相続の御歎につき馬廻りの面々より伺い
6-14 百姓一揆につき家中より物成返上の願

6-15 御支配切手御買上を仰せ出さるる事
6-16 袋川用水につき仰せ出さるる事
6-17 加賀御前(宝林院)逝去の事
6-18 家中へ儉約を仰せ出さるる事
6-19 居懸り奉公人に関する触
6-20 松井番右衛門へ郡代を仰せ付けらるる事
6-21 在中騒動につき組頭等物成返上を申し出る事
6-22 上野小平太遠慮の事
元文五年(一七四〇).....299

6-23 大広院(池田宗泰)初入国の事
6-24 御尋者につき達
6-25 家中物成一つ成の借上延長等仰せ出さるる事
寛保元年(一七四一).....300

6-26 御用人岡嶋十太夫義絶一件
6-27 景福寺後住の取捌につき荒尾和泉閉門の事
6-28 江戸より、岩越運五郎伝来の陣羽織・頬当を所望の事
6-29 家督祝儀に招請の面々書上
6-30 景福寺後住の取捌につき荒尾和泉書付
6-31 荒尾和泉閉門御免の事
6-32 「明君享保録」抜粹
寛保二年(一七四二).....302

6-33 先祖伝来の陣羽織・頬当献上につき岩越二郎左衛門御目見の事
6-34 東照宮葺替の事
6-35 岡嶋十太夫永の御暇を仰せ付けらるる事
寛保三年(一七四三).....302

6-36 矢野弥左衛門大坂留守居御免の事
延享元年(一七四四).....302

6-37 田嶋で刑罰ある事
6-38 米村平作等閉門の事
6-39 八月十日大風の事
6-40 田嶋の刑罰に関する異説
6-41 金銀通用につき触
6-42 家中物成一つ成借延を仰せ出さるる事
6-43 必至の難渋につき御簡略を仰せ出さるる事
6-44 家中衣類・音信贈答等儉約を仰せ出さるる事

延享二年(一七四五).....307

- 6-45 幕府より古記録等の調査を命ぜらるる事
- 6-46 作州の内七万石御預かりの事
- 6-47 馬喰小沼次三郎乗馬の事
- 6-48 作州の内七万石御預かりにつき御札の事
- 6-49 植村与右衛門へ馬廻りを仰せ付けらるる事

延享三年(一七四六).....309

- 6-50 幕府より領知判物を賜る事
- 6-51 勝手方累年不如意につき儉約を仰せ出さるる事
- 6-52 儉約に関する組頭衆の歎願

延享四年(一七四七).....311

- 6-53 大路山・雲山で山狩の事
- 6-54 勝手向差詰りのため儉約を仰せ出さるる事
- 6-55 家中物成五歩通り借増を仰せ出さるる事
- 6-56 家来等の吟味に関する組頭と家老の間答
- 6-57 矢野弥左衛門勝手方諸締り役を仰せ付けらるる事
- 6-58 大広院(池田宗泰)逝去、家督相続の事
- 6-59 山下采女死去の事
- 6-60 建部甚蔵へ新田奉行を仰せ付けらるる事
- 6-61 大広院(池田宗泰)逝去、家督相続の事
- 6-62 甲州川手伝普請の書付写
- 6-63 池田重寛家督相続の事
- 6-64 甲州川手伝普請に葵蝶打交紋の幕の使用を願う事
- 6-65 家来の吟味につき差し纏れの事

寛延元年(一七四八).....318

- 6-66 荒尾豊前死去、法名について興禅寺と出入の事
- 6-67 国目付来藩の事
- 6-68 閏十月朔日より城番をたてる事
- 6-69 甲州川手伝普請につき幕府よりの書付
- 6-70 他所への御使者の物成につき触
- 6-71 馬廻りの面々へ城番を仰せ付けらるる事
- 6-72 年頭御札につき触
- 6-73 梶川官右衛門へ鉄炮御預け、惣仲間中不服の事
- 6-74 中野新六屋敷出火の事

寛延二年(一七四九).....321

6-75 国目付へ差し出す家中人数等の書上

- 6-76 岩崎軍左衛門の妻密通の事
- 6-77 藤田才兵衛御餌指を手討にする事
- 6-78 興禅寺柏山和尚遷化の事
- 6-79 国目付と面会の事
- 6-80 斎藤助之丞本宅出火の事
- 6-81 城番に関する記録
- 6-82 城下の水筋浚につき触
- 6-83 国目付来藩につき仰せ出さるる事
- 6-84 馬廻りの面々国目付と面会の事
- 6-85 国目付逗留中につき盆躍り禁止の事
- 6-86 当職の面々の子供の年令調査等につき触
- 6-87 湯所惣門往来の心得につき仰せ渡さるる事
- 6-88 屋敷間敷改奉行来訪の事
- 6-89 家中困窮につき組頭へ歎願書を出す事
- 6-90 国目付に面会の事

寛延三年(一七五〇).....326

- 6-91 作州預かり地の異論につき大口権九郎処分の事
- 6-92 岩崎軍左衛門父子追放の事
- 6-93 藤田才兵衛御餌指を手討にする事
- 6-94 永原温哲弟官右衛門日雇いを手討にする事
- 6-95 大口権九郎等江戸へ呼び出しの事
- 6-96 殿様(池田重寛)痘瘡の事
- 6-97 三御蔵年貢米の運送につき触
- 6-98 諸士の御番改めの事
- 6-99 宗門判形の事
- 6-100 家中物成三步通り返付の事
- 6-101 鳥取城二の丸の図

因府歴年大雑集 第七卷(宝暦元年〜天明三年)

- 宝暦元年(一七五二).....331
- 7-1 柳蔵惣門内に男女の死体ある事
- 7-2 家来・長屋の者等の吟味につき差し纏れの事
- 宝暦二年(一七五三).....331
- 7-3 百々田一二三、一夜に二人を殺害する事

宝曆三年(一七五三)

- 7-4 安田七左衛門出精につき本物成を仰せ付けらるる事
- 7-5 米村所平家の名跡取立の事

333

宝曆四年(一七五四)

- 7-6 帽子屋火事の事
- 7-7 観音院住持等刑罰の事
- 7-8 帽子屋火事の事
- 7-9 真宗寺本堂焼失の事

337

宝曆五年(一七五五)

- 7-10 法美郡瀧山村光清寺で勧進相撲興行の事
- 7-11 紀伊大納言(徳川宗直)の差図により荒尾志摩逼塞の事
- 7-12 御式台惣詰につき仰せ出さるる事
- 7-13 御幼君(池田重寛)側近の心得につき仰せ出さるる事
- 7-14 御幼君(池田重寛)の養育につき女中へ仰せ出さるる事
- 7-15 御式台惣詰につき仰せ出さるる事

339

宝曆六年(一七五六)

- 7-16 権現堂中ノ丁衣笠三活宅より出火の事

339

宝曆七年(一七五七)

- 7-17 安田七左衛門格別出精の事

339

宝曆八年(一七五八)

- 7-18 家中若党・奉公人の申し合わせ不成就の事
- 7-19 学館の読書所竣工につき触

340

宝曆九年(一七五九)

- 7-20 小倉藤右衛門・石上勘右衛門双方討ち果たす事
- 7-21 家中物成三步通り返付等仰せ出さるる事
- 7-22 在方行政につき小嶋惣左衛門等に仰せ出さるる事
- 7-23 加藤丹下跡式につき差し纏れの事

342

宝曆十年(一七六〇)

- 7-24 初野才兵衛家来の鎧持、女を殺し自刃の事
- 7-25 留守居遠藤源左衛門、源五郎一件につき幕府より吟味を受ける事
- 7-26 岩井郡延興寺村で鈴木太夫の娘手討の事
- 7-27 安田七左衛門役儀出精の事

343

- 7-28 江戸芝金杉下屋敷類焼の事
- 7-29 源五郎一件の裁許
- 7-30 江戸上屋敷御広敷御殿普請成就の事

宝曆十一年(一七六一)

- 7-31 徳川將軍宣下の祝儀として老中招請の事
- 7-32 御徒振替年限の事
- 7-33 備中国源五郎の略歴
- 7-34 魚町の肴問屋へ落雷につき狂歌

347

宝曆十二年(一七六二)

- 7-35 佐分利久次郎、御小人を手討にする事
- 7-36 徳川將軍宣下の祝儀として老中招請の事
- 7-37 法美・八上郡境の三本松の事

348

宝曆十三年(一七六三)

- 7-38 殿様(池田重寛)初入国の事
- 7-39 河村・久米両郡洪水の事
- 7-40 鳥府洪水の事
- 7-41 定火消廢止の事
- 7-42 岡田甚右衛門屋敷の側で女縊死の事
- 7-43 家中へ貸付の銀札を十年賦で取立の事
- 7-44 十二月中旬大雪の事
- 7-45 諸役所の仕事納めの事
- 7-46 灘より異魚が上がる事
- 7-47 出火時の対応につき仰せ出さるる事
- 7-48 証人上に対する玄関会釈の事
- 7-49 池田重寛初入国につき家中への触
- 7-50 会見郡柏尾村の百姓の忤神隠しに遭う事

352

明和元年(一七六四)

- 7-51 在府中の城番の事
- 7-52 年始に勘定所で大庄屋をもてなす事
- 7-53 銀札騒動の事
- 7-54 田嶋で刑罰ある事
- 7-55 鳥取城下で溺死・火事ある事
- 7-56 馬淵五郎左衛門へ大銀元御勝手方諸締り役を仰せ付けらるる事
- 7-57 加藤久馬・深田惣左衛門、乾甲斐方へ久々不参の事
- 7-58 銀札引替等につき触

355

- 7-59 邑美郡二ツ山の灘に唐船漂着の事
- 7-60 鶴殿主馬政長家来安田軍平、作州で女敵討の事
- 7-61 判物写の差し出し方につき差し纏れの事

明和二年(一七六五) 357

- 7-62 家中の武芸御覧につき触
- 7-63 五匁銀通用を仰せ出さるる事
- 7-64 御目付三人役儀御免の事
- 7-65 銀札引替につき仰せ出さるる事
- 7-66 東照宮(徳川家康)百五十回忌につき触
- 7-67 海陸御固役人附

明和三年(一七六六) 359

- 7-68 神戸次太夫江戸で不埒の事
- 7-69 北村又兵衛退身の事
- 7-70 銀札引替につき触
- 7-71 取次時の敬称につき番頭・組中差し纏れの事
- 7-72 若君(池田治恕)誕生の事
- 7-73 閉門の面々御免、蟄居となる事
- 7-74 御近習定府河村屯永の御暇の事
- 7-75 取次時の敬称差し纏れにつき組中の願書
- 7-76 取次時の敬称差し纏れにつき番頭四人知行所へ蟄居の事
- 7-77 河村彦十郎・屯、永の御暇の事

明和四年(一七六七) 362

- 7-78 漂着朝鮮人を長崎へ移送の事
- 7-79 町御目付下奉行永の御暇の事
- 7-80 湯所火事の凶
- 7-81 真鍮四文銭発行につき触
- 7-82 蟄居中の番頭の面々知行所より呼び返し

明和五年(一七六八) 367

- 7-83 神戸造酒閉門の事
- 7-84 神戸造酒隠居の事
- 7-85 証人上矢野紋右衛門扶持召し上げの事

明和六年(一七六九) 368

- 7-86 七月に客星出現の事
- 7-87 太陽の中に丸き物がみえる事
- 7-88 十月に客星出現の事
- 7-89 江戸での金子拝借等禁止につき触
- 7-90 法美郡宮下で魚の化石を拾う事

明和七年(一七七〇) 369

明和八年(一七七二) 371

- 7-91 六月に客星等出現の事
- 7-92 七月の雲焼けの事
- 7-93 十二月赤気出現の事
- 7-94 八上郡中井村妙玄寺跡で経筒を掘り出す事
- 7-95 大関名取山の事
- 7-96 鳥取城下物騒につき坊主へも疑いがかかる事
- 7-97 河越平の袴着用許可の事

明和八年(一七七二) 371

- 7-98 因伯で抜け参り流行の事
- 7-99 正月元日御太刀上げの事
- 7-100 法美郡百谷村柳原寺願いにより曲馬芝居興行の事
- 7-101 高草郡秋里村等の献上御用の鮭漁につき申し渡し
- 7-102 南鐐式朱銀通用につき触

安永二年(一七七三) 372

- 7-103 御目付早川四郎右衛門、御長柄頭と差し纏れの事
- 7-104 加藤丹下の家名取立の事
- 7-105 遊行上人へ進物を遣わさるる事

安永三年(一七七四) 373

- 7-106 四宮丈左衛門妻不義密通の事
- 7-107 御銀札場御目付閉門の事
- 7-108 郡代元締木村五郎八頭筆頭となる事

安永四年(一七七五) *記事なし 373

安永五年(一七七六) 373

- 7-109 若殿様(池田治恕)御傳役鈴木佐二右衛門の事

安永六年(一七七七) 374

- 7-110 学館で養老の典を行う事
- 7-111 学館で射芸御覧の事
- 7-112 二月十一日大地震の事
- 7-113 高木氏の屋敷に住吉大明神勧請の事

安永七年(一七七八) 375

- 7-114 学館で射芸御覧の事
- 7-115 勝手方制度改革につき仰せ出さるる事
- 7-116 郡代・元締・銀札場長役兼帯木村五郎八閉門の事
- 7-117 銀札場取り調べにつき在町への触
- 7-118 銀札場長役交替につき家中への触

安永八年(一七七九)	7-119 銀札場役人御支配召上の事	377
安永九年(一七八〇)	7-120 三月廿八日に大粒の雹が降る事	377
	7-121 小山札という銀札の事	377
天明元年(一七八一)	7-122 上州百姓一揆の風聞	378
天明二年(一七八二)	7-123 全国で疫病流行の事	379
	7-124 十月十七日、空に光物出現の事	379
	7-125 御弓徒中西官平、会見郡長者原の一揆を鎮める事	379
天明三年(一七八三)	7-126 浅間山噴火の事	379
	7-127 明石増左衛門精勤の事	379
	7-128 諸奉行等の所作の事	379
	7-129 鳥取城二の丸の図	379
因府歴年大雑集 第八卷(天明四年〜寛政十年)		383
天明四年(一七八四)	8-1 江戸上屋敷焼失の事	383
	8-2 奥羽地方飢饉の事	383
	8-3 仙台侯へ角銭鑄造の免許が出る事	383
天明五年(一七八五)	8-4 御坊主共専横の事	384
	8-5 御目見町人木履で諸士に会釈は心得違いの事	384
	8-6 天明五巳年伯州之灘ニテ捕タル海獣之図	384
天明六年(一七八六)	8-7 正月元日の日蝕の事	386
	8-8 中土手火事の図	386
天明七年(一七八七)	8-9 江崎豎町火事の図	388
天明八年(一七八八)	8-10 伊丹久兵衛兄弟吟味の事	389
	8-11 御高懸り御納金につき大坂留守居山下五左衛門不首尾の事	390
寛政元年(一七八八)		390

寛政二年(一七八九)	8-12 伊丹久兵衛御構御追放の事	391
	8-13 大山寺領の朱印状を幕府より受け取る事	391
	8-14 伊丹久兵衛一件に関する荒木九允への裁許	391
寛政三年(一七九〇)	8-15 早川与左衛門刃傷沙汰の事	392
	8-16 戸田玄民の飼猫異形の子を産む事	392
	8-17 浄宗寺の開帳不評の事	392
寛政四年(一七九一)	8-18 興禅寺で御両国無縁仏供養の事	393
	8-19 生姫(輪光院)遠行の事	393
	8-20 林子平、「海国兵談」等を著し蟄居となる事	393
寛政五年(一七九二)	8-21 天国作の長刀に関する逸話	393
	8-22 江府東叡山の火消を請ける事	393
	8-23 因幡一宮の社務村方と争論の事	393
寛政六年(一七九三)	8-24 海池浪人三刀屋周蔵虚無僧を斬る事	394
	8-25 米子組士鷲見権之丞寄合組となる事	394
	8-26 元方並びに銀札場御銀無利十年賦を仰せ出さるる事	394
	8-27 三刀屋周蔵達書	394
	8-28 古海河原勸進相撲番付	394
	8-29 荒尾駿河、三刀屋周蔵を召し抱える事	394
	8-30 領内の有名力士の書上	394
	8-31 勸進相撲狂歌	394
寛政七年(一七九四)	8-32 御書役森田善兵衛自殺の事	400
	8-33 勝手向不如意につき御簡略の延長を仰せ出さるる事	400
	8-34 山田市左衛門へ新規に御居間目付を仰せ付けらるる事	400
	8-35 博奕制禁を仰せ出さるる事	400
	8-36 文武精励の面々の調査を仰せ出さるる事	400
	8-37 文武精励の面々調査につき池田日向組内への申し渡し	400
	8-38 「洪水の記」抜書	400
	8-39 大谷平次兵衛等洪水に流される事	400
	8-40 洪水による鳥取城下の被害	400

8-41	安田丈右衛門が語る洪水の被害	413
8-42	羽田盤弥太、流人十七人を救助の事	
8-43	卯の洪水番付	
8-44	洪水後不用心につき不審者取り締まり等の触	
8-45	伊藤千里御儒者に命ぜらるる事	
8-46	元方並びに銀札場御銀無利二十年賦を仰せ出さるる事	
8-47	諸借銀十年賦に関する落書・狂歌	
8-48	洪水後の相組会の事	
8-49	縫殿頭(池田定常)帰国、洪水により智頭往来不通の事	
8-50	大谷平次兵衛の家名取立の事	
寛政八年(一七九五)	408
8-51	阿波徳島の旅商、コウの灰を売り広める事	
8-52	木々の若葉に異形の実が付く事	
8-53	若殿様(池田斉邦)薩摩藩島津家と縁組の事	
8-54	触使につき異乱の事	
8-55	大機院(池田治道)・豊前守(池田仲雅)の馬上姿の事	
寛政九年(一七九六)	411
8-56	羽田盤弥太、法美郡中鄉村神主の悴を手討にする事	
8-57	日野郡黒坂宿荒子の妻水死の事	
8-58	古筆・古器等の書き出しを命じる触	
8-59	隠居荒尾千葉之助合力百俵を遣わさるる事	
8-60	荒尾飛驒居在郷を願う事	
8-61	若殿様(池田斉邦)出府の供	
寛政十年(一七九七)	413
8-62	安部多喜之助の土蔵焼失の事	
8-63	乾平右衛門長孝卒去の事	
8-64	乾平右衛門長孝の略歴	
8-65	家中物成一損返付、二つ成となる事	
8-66	荒尾千葉之助再役を仰せ付けらるる事	
8-67	山田市左衛門新知二百石を遣わさるる事	
因府歴年大雑集 第九卷(寛政十一年〜文化四年)	417
寛政十一年(一七九九)	417
9-1	芝居・見せ物同様の催し制禁の触	
9-2	藩君(池田斉邦)甲冑召初の事	

9-3	勸進相撲興行の事	430
9-4	茶町火事の事	
9-5	秋里屋権兵衛出家の事	
9-6	安部甚兵衛土蔵より出火の事	
9-7	角井谷へ新川普請始まる事	
9-8	若者共が悪戯で狼の声真似をする事	
9-9	荒尾千葉之助御国へ御暇の事	
寛政十二年(一八〇〇)	424
9-10	池田斉邦元服の事	
9-11	岡部善右衛門若党、一橋家中と諍いの事	
9-12	桂香院逝去の事	
9-13	池田日向之昌の略歴	
享和元年(一八〇一)	430
9-14	岩井郡浜大谷村の海辺に朝鮮の陣太鼓漂流の事	
享和二年(一八〇二)	431
9-15	風邪大流行の事	
9-16	御堀浚始まる事	
9-17	幟練り取り締まりの事	
9-18	久米郡下松神村百姓の妻子四国巡拝の事	
享和三年(一八〇三)	434
9-19	三田衆伊藤序助次男平八醉漢を手討にする事	
9-20	湖山池に大蛇が出るとの巷説	
9-21	大工町平木屋某、易者に騙される事	
9-22	相撲星取表	
文化元年(一八〇四)	440
9-23	古海御出の節の規定改まる事	
9-24	学館で養老の典を行う事	
9-25	法美郡岩倉村の百姓過つて御鷹を傷つける事	
文化二年(一八〇五)	441
9-26	江戸冬相撲の事	
9-27	荒尾千葉之助役儀御免の事	
9-28	山本儀右衛門悴文之進、幕府暦作御用手伝を仰せ付けらるる事	
文化三年(一八〇六)	442
9-29	幕府天文方通行の節の先触	
文化四年(一八〇七)	444

因府歴年大雑集 第十卷 (文化五年〜文化九年)

文化五年 (一八〇八)

- 9-30 火元見御用の笠等につき触
- 9-31 儉約につき仰せ出さるる事
- 9-32 石州からの借銀につき小川常右衛門へ御尋の事
- 9-33 永之進(池田齊稷)家督相続の事
- 9-34 幟練り取り締まりの事

447

文化六年 (一八〇九)

- 10-1 鉄炮洲家の家督相続について密議の事
- 10-2 小川助左衛門下女、衣類法度に背く事
- 10-3 邑美郡叶村で真鴨を撃ち取る者ある事
- 10-4 真証院(池田齊邦)の御側役の事
- 10-5 八橋郡八橋町法林寺に客僧来訪の事
- 10-6 家中の奉公人風呂屋町で狼藉の事
- 10-7 武術師範へ門弟の名前を書き出すよう仰せ出さるる事
- 10-8 御当代様(池田齊稷)奥谷御廟参の事
- 10-9 浪人大谷嘉門太、八東郡船岡で人を斬る事
- 10-10 八東郡御門村の庸医召し捕られる事
- 10-11 学館で武芸御覧の事
- 10-12 瀧孫平治四男助三郎盗人を討ち取る事
- 10-13 江戸上屋敷出火の事
- 10-14 名医難波義材の事
- 10-15 愛宕山金剛院開帳の事
- 10-16 武芸出精につき師範人に金五百疋遣わさるる事
- 10-17 岩井郡岩本御蔵の盗人の事
- 10-18 米村物集女宅出火の事
- 10-19 在町の衰微甚だしき事
- 10-20 寄合組山崎主馬に御長柄御預けにつき仲間と差し纏れの事

451

文化七年 (一八一〇)

- 10-21 気多・高草両郡で札打ち流行の事
- 10-22 疲弊に乗じて他国より悪徒が入り込むとの風聞ある事
- 10-23 三田衆木村東市宅に札所の杭が打たれる事
- 10-24 立川大火の事
- 10-25 立川大火に関する風聞

453

文化八年 (一八一二)

- 10-26 立川大火後府下物騒の事
- 10-27 立川大火の死傷者の事
- 10-28 立川大火後逐電する者ある事
- 10-29 或家の息女自害の事
- 10-30 新町の木挽、子を捨てる事
- 10-31 立川大火後の富商の対応
- 10-32 鵜殿大隅・福田丹波宅出火の事
- 10-33 高草郡湖山村の百姓奇獣を討ち取る事
- 10-34 三田家御用人中山所右衛門を本家へ召抱につき諍いの事
- 10-35 春大雪、薪炭高直の事
- 10-36 御用人熊沢左膳退役の後御叱りを蒙る事
- 10-37 御軍鑑高坂武兵衛の事
- 10-38 中山所右衛門一件につき仰せ出さるる事
- 10-39 家中物成八歩通り返付の事
- 10-40 鉄炮洲家浜田政右衛門悻清十郎、天徳寺の僧侶と争闘の事
- 10-41 鹿野橋土手の榎が老婆に見える事
- 10-42 十ヶ年儉約の触
- 10-43 修験三教院の夢に妖狐が現れる事

460

文化九年 (一八一三)

- 10-44 人相書の肥後国嘉次平討ち取られる事
- 10-45 諸寺院隠居の住居につき仰せ出さるる事
- 10-46 殿様(池田齊稷)任官等を幕府へ願う事
- 10-47 文化壬申大火略図
- 10-48 野崎十兵衛不審につき御尋の事
- 10-49 出火時の詰所につき仰せ出さるる事
- 10-50 佐橋火事に出勤の面々出精につき申し渡し
- 10-51 佐橋火事火元佐橋鉄蔵遠慮の事
- 10-52 佐橋火事の世評
- 10-53 佐橋家下女の悪評
- 10-54 興禅寺回祿後、本山より使僧来訪の事
- 10-55 気多郡小畑村清宗院の住職不埒の事
- 10-56 屋敷類焼の面々への御戻米につき新法を仰せ出さるる事
- 10-57 興禅寺現住泰源方丈等処分の事
- 10-58 火除地に関する風聞

463

- 10-59 諸職人・日雇の賃金等につき触
- 10-60 佐橋火事後材木払底の事
- 10-61 佐橋火事の節格別出精につき福田某への褒詞
- 10-62 大寄合荒尾藤十郎御普請手と諍いの事
- 10-63 大工町の商人殺害される事
- 10-64 稀有の大雪山により湖山池・米子内海に氷が張る事

因府歴年大雑集 第十一卷(文化十年〜文政十二年)

文化十年(一八一三)

- 11-1 耀国院(池田齊稷)二の丸の稲荷社へ和歌額面奉納の事
- 11-2 高草郡加路村の娘狸の子を産む事
- 11-3 臆病者の若党人を斬る事
- 11-4 幕府より粃米貯蔵を命ぜらるる事
- 11-5 江戸城西の丸に若君誕生につき大赦の事
- 11-6 測量のため伊能忠敬来訪の事
- 11-7 日野郡大菅村の百姓一家木挽に殺害される事
- 11-8 江戸定詰津田右門大矢数の事

文化十一年(一八一四)

- 11-9 江戸上屋敷北長屋類焼の事
- 11-10 天野凶書足軽、鉄炮の暴発により死亡の事
- 11-11 領内に奇石等の献上を命ぜらるる事
- 11-12 判物の写を差し出す事
- 11-13 山住平之丞、馬と共に多鯰ヶ池に水没の事
- 11-14 御用人森佐左衛門へ小根取を仰せ付けらるる事
- 11-15 引き続き五年間の儉約を仰せ出さるる事
- 11-16 役人一統の風儀引き締めを仰せ出さるる事
- 11-17 江戸上屋敷北長屋類焼の事
- 11-18 御用人加藤主馬に本知返付、都合千石となる事

文化十二年(一八一五) *記事なし

文化十三年(一八一六) *記事なし

文化十四年(一八一七)

- 11-19 徳川將軍家より乙五郎(池田齊衆)を養子に迎える事
- 11-20 御紋付小丸挑灯の取り扱いにつき問い合わせの事
- 11-21 乙五郎(池田齊衆)引移りの節迎えの供

文政元年(一八一八)

- 11-22 乙五郎(池田齊衆)初登宮の次第
- 11-23 二階町の産物座廃止の事

文政二年(一八一九)

- 11-24 気多郡下坂本村で白銀様のものを掘り出す事
- 11-25 葵紋付挑灯の取り扱いにつき仰せ出さるる事
- 11-26 近江国甲賀郡池田村金龍院勸化の事
- 11-27 伯州八橋浦へ朝鮮人漂着の事
- 11-28 文政二己卯年閏四月朔日大火之図

文政三年(一八二〇)

- 11-29 御用人加藤主馬へ勝手方小仕置を仰せ付けらるる事
- 11-30 銀札差支えのため唐津船入津なし、物価高騰の事
- 11-31 地利米の買い上げ始まる事

文政四年(一八二一)

- 11-32 岩井郡浜大谷村の浜で壺等を掘り出す事
- 11-33 相撲番付写
- 11-34 必至の難渋につき儉約を仰せ出さるる事
- 11-35 家中物成八歩通り借増を仰せ出さるる事

文政五年(一八二二)

- 11-36 八上郡釜ノ口村等洪水の事
- 11-37 六月四日の宵月の事
- 11-38 江戸城礼席・殿席につき達
- 11-39 八東郡諸鹿村の百姓三人召し捕られる事

文政六年(一八二三)

- 11-40 気多郡亀尻村の商人備中国へ出稼ぎの事
- 11-41 智頭街道和田屋火事の事

文政七年(一八二四)

- 11-42 耀国院(池田齊稷)妹賢章院逝去の事
- 11-43 物頭毛利孫左衛門の屋敷旋風の難に逢う事
- 11-44 勝手向不如意につき対策を募集する事

文政八年(一八二五)

- 11-45 八月中旬より客星出現の事
- 11-46 内々に鷹拝領の事
- 11-47 葵紋挑灯の取り扱いにつき仰せ出さるる事
- 11-48 花葵紋御用につき江戸へ通達の事
- 11-49 江戸表出火時の対応につき仰せ出さるる事

11-50 鍵屋という材木屋へ落雷の事
 文政九年(一八二六) 496
 11-51 七月二日光物出現、疾風大雨の事
 文政十一年(一八二八) 496

11-52 竹島山不動院で陶器等を掘り出す事
 11-53 江戸増上寺出火、殿様(池田斉稷)火消に活躍の事
 11-54 近藤類蔵等御国勝手を仰せ付けらるる事
 11-55 野崎儀三郎の馬、町人と衝突する事
 11-56 拳火の取り扱いにつき仰せ出さるる事
 11-57 家中の面々の下乗所につき仰せ出さるる事
 11-58 御城・御宮等での下馬下乗につき仰せ出さるる事
 11-59 殿様(池田斉稷) 来年年賀につき家中へ祈禱を申し付ける事
 文政十二年(一八二九) 499

11-60 御使番村上十歳不埒につき家名断絶の事
 11-61 古海土手の巨松打ち倒れる事
 因府歴年大雑集 第十二卷(天保元年〜天保十二年)
 天保元年(一八三〇) 501

12-1 切支丹豊田貢等大坂で磔となる事
 12-2 吉田定馬、兄丈助を切りつける事
 天保二年(一八三一) 502
 12-3 銀札引替値段の事
 12-4 日光山古実強飯責の辞
 12-5 大西貢日光代参時の献立
 12-6 組頭と組の面々へ和順一致等を申し渡す事
 12-7 有沢隼見不埒露頭の事
 天保三年(一八三二) 505

12-8 家中物成五歩通り借増を仰せ出さるる事
 12-9 鶴殿家の陪臣、出奔の朋輩を捕らえる事
 12-10 高草郡下段村の孝行人伊助夫妻の事
 12-11 日光修覆手伝の節十三奉行書上
 12-12 池田斉訓御初入御行列
 12-13 鼠小僧次郎吉の事
 12-14 気多郡夏泊に鯨漂着の事
 天保四年(一八三三) 510

12-15 家中の家筋調査につき通達
 天保五年(一八三四) 511

12-16 江戸八代洲上屋敷添地拝領の事
 12-17 邑美郡八坂村で鉄器等出土の事
 12-18 家中の老人等学館で御目見の事
 12-19 法美郡立川村竹島天神開帳の事
 天保六年(一八三五) 514

12-20 養源寺の由緒
 12-21 邑美郡行徳村で子供芝居興行につき通達
 12-22 八十歳以上の面々学館で御目見につき指示
 天保七年(一八三六) 515

12-23 但馬国豊岡藩主京極高行五穀豊熟を禱る文
 12-24 五年間の儉約を仰せ出さるる事
 12-25 狂歌八首
 12-26 山本某娘に憑いた悪狐追放の事
 12-27 日光強飯の辞
 天保八年(一八三七) 516

12-28 汗入郡押平村源右衛門、家内長寿につき鏡餅献上を願う事
 12-29 夏頃疫災流行の事
 12-30 野村善蔵悴市之助退身の事
 天保九年(一八三八) 517

12-31 岩井郡網代灘へ朝鮮船漂着の事
 12-32 巡見使への答弁覚書扇子
 12-33 オランダ風説書の伺いに関する幕府回答
 12-34 岩井郡海土村の分領で蛇持(隆起)が起きる事
 12-35 興禅寺後住に大泉禅師招請の事
 天保十年(一八三九) 524

12-36 浪人松野清四郎召し捕られ自害する事
 天保十一年(一八四〇) *記事なし 524
 天保十二年(一八四一) 525

12-37 伯耆国八橋郡赤崎ニテ捕タル異魚之図
 12-38 岸本甚蔵悴藤之進、徒を手討にする事
 12-39 日光紀行地方之全図
 12-40 扁壺の図
 天保四年(一八三三) 510

因府歴年大雑集 第十三卷 (天保十三年〜嘉永六年)

天保十三年 (一八四二) 527

- 13-1 熊沢官兵衛の馬、福田伊賀の屋敷で暴れ廻る事
- 13-2 武術奨励等を仰せ出さるる事

天保十四年 (一八四三) 527

- 13-3 近習目付山田惣七倅猪之丞、大工を手討にする事
- 13-4 髪切という怪異の事

天保十五年 (一八四四) 528

- 13-5 水戸藩の追鳥狩の事
- 13-6 徳川斉昭隠居の事
- 13-7 河村郡宇野村の灘で捕獲の海ナメの凶
- 13-8 着類・所作等に関する家老・番頭の間答
- 13-9 御国製はがねつめの引札
- 13-10 長崎に来航のオランダ船の事
- 13-11 暁天に光物出現の事

弘化二年 (一八四五) 538

- 13-12 森官兵衛町人を打擲する事
- 13-13 長崎へ来航のイギリス船出帆の事
- 13-14 家中物成二歩通り返付の事
- 13-15 鳥取城二の丸の凶

弘化三年 (一八四六) 541

- 13-16 土佐香橋本宅焼亡の事
- 13-17 岩井郡岩戸村の漁師流れ鯨を捕る事
- 13-18 御両国の年貢勘定手際良く進む事
- 13-19 池田慶行元服、諱の由来
- 13-20 鷹拝領の事
- 13-21 五月十日の日の出の事
- 13-22 高草郡加路村で相撲興行の事
- 13-23 岩井郡浦留で船繋の普請始まる事
- 13-24 邑美郡行徳村の米搗水車場出火の事
- 13-25 伊吹卯太郎家来に斬られる事
- 13-26 因伯人別改
- 13-27 荒尾小八郎の大小暦

弘化四年 (一八四七) 546

- 13-28 当年は春寒、二月中旬に蚊の出る事

13-29 御鷹師の風俗の事

13-30 鷹の餌不足の事

13-31 逃げ去った乾八次郎の鶴を鷹が捕らえる事

13-32 寄合以上に弓馬の御覧を仰せ出さるる事

13-33 飯沼伊左衛門・野崎八郎兵衛、弓馬の御覧を断る事

13-34 法美郡矢津村地藏堂の老人、子供に狼藉の事

13-35 村上兵録の妻、池田兵庫介へ直訴の事

13-36 御両国在中八十歳以上の人数

13-37 石原氏の密葬に行き逢う事

13-38 村上兵録同居杉原瀬兵衛等三人吟味の事

13-39 米値段の事

13-40 天体現象の記録

13-41 九月花相撲の事

13-42 大雪中の刑罰の事

13-43 冬に風邪流行の事

13-44 信州大地震の事

13-45 当年の天候は凶年同様との風聞ある事

13-46 智頭郡佐治谷の山中にデネンゴ繁茂の事

13-47 秋の彼岸に雹が降る事

13-48 岩井郡田後村に波止場の適地ある事

13-49 久米郡堀村心中の書置

13-50 鑷之助 (池田清直) を鉄炮洲家の養子とする事

13-51 小泉久太夫の伯父一家殺害される事

嘉永元年 (一八四八) 551

13-52 二の丸の普請始まる事

13-53 当年の気候は凶年の前兆との風聞広まる事

13-54 田嶋で刑罰ある事

13-55 高草郡徳尾村の森に鶴が巢を作る事

13-56 稲の生育不調、米払底の事

13-57 海上不穏の風説広まる事

13-58 出水で二人行衛不明となる事

13-59 八東郡横地村で銀を掘り出す事

13-60 土用に入り稲繁茂、米も多く出回る事

13-61 丸山善久寺で古金等見つかる事

13-62 当秋案外の豊作となる事

嘉永二年(一八四九)

13 | 63 八東郡須澄村で銀を掘り出す事
13 | 64 城門の祈禱札に嘉永二年とある事
13 | 65 熊沢官兵衛若党を手討にする事
13 | 66 当年秋暑甚だしき事
13 | 67 九月に地震ある事
13 | 68 十月廿六日に大地震ある事
13 | 69 十一月十四日地震、高草郡加路村に洪波が打ち寄せる事
13 | 70 岩井郡湯村・八上郡天神原村の砥石の事
13 | 71 当冬大雪の事
13 | 72 穢多が牛部屋へ毒を投げ込む事
13 | 73 当秋不作、気多郡格別に難儀の事
13 | 74 当冬は返り咲き多き事

因府歴年大雑集 第十四卷(補遺一)

14 | 1 因幡国の印
14 | 2 因幡国の印
14 | 3 因幡国師の印
14 | 4 信長・秀吉の印
14 | 5 荒木新右衛門所持の書札
14 | 6 野間鹿蔵屋敷の南堺より揚羽蝶紋入りの古瓦を掘り出す事
14 | 7 城内松ノ丸下より揚羽蝶紋入りの古瓦を掘り出す事
14 | 8 ある家の宛にみえる揚羽蝶紋の事
14 | 9 袋川の旧図
14 | 10 美濃龍徳寺安置の長久手戦死者の位牌
14 | 11 池田勝入・之助の死を悼む秀吉の書状
14 | 12 池田信輝、荒尾美作の智となる事
14 | 13 長久手合戦で池田勝入討死の事
14 | 14 大坂の陣に関する池田忠継の逸話
14 | 15 池田忠雄に関する逸話
14 | 16 池田光仲に関する逸話
14 | 17 清源寺(池田綱清)と紀伊頼宣の逸話
14 | 18 力士生月鯨吉の大小暦
14 | 19 越前池田氏に関する書状
14 | 20 荒尾家より国目付への答書
14 | 21 荒尾家より国目付への答書
14 | 22 池田忠継軍記
14 | 23 池田輝政夫人良正院の事
14 | 24 中村氏断絶、伯耆を三人に分領の事
14 | 25 徳川家光上洛の際大名方供奉の次第
14 | 26 寛永年中江戸に辻番・巷門を置く事
14 | 27 慶長十八年切支丹宗門禁制
14 | 28 慶長・元和期の徳川將軍家の動向
14 | 29 徳川家康より池田家へ初めて判物を賜る記録
14 | 30 関ヶ原御陣中之御条目
14 | 31 大坂御陣中御条目
14 | 32 大坂御陣中制札

嘉永三年(一八五〇)

13 | 75 当春は氣候平穩の事
13 | 76 落合久右衛門・坂川市之進狂歌やり取りの事
13 | 77 梅の開花遅れる事
13 | 78 会見郡上道村へ異国船漂着の事
13 | 79 八上郡の砥石は釉薬に適する事
13 | 80 八東郡福井村の瓦師へ壺焼を仰せ付けらるる事
13 | 81 大工町で種痘を始める事
13 | 82 「海外新話」を見る事
13 | 83 稲の生育不調の事
13 | 84 備中国等洪水の事
13 | 85 因伯で種痘始まる事
13 | 86 池田慶栄初入国のため江戸出立の事
13 | 87 秋の天候と稲の生育、米相場の事
13 | 88 御用人近藤類蔵・御長柄花房隼馬の家来狼藉の事
13 | 89 八東川等洪水の事
13 | 90 池田慶栄葬送の事

嘉永五年(一八五二)

13 | 91 中野良助へ御国産長役を仰せ付けらるる事
13 | 92 学館不思議に繁盛する事

嘉永六年(一八五三)

13 | 93 浦賀に黒船四艘来航の事

因府歴年大雑集 第十四卷(補遺二)

14 | 1 因幡国の印
14 | 2 因幡国の印
14 | 3 因幡国師の印
14 | 4 信長・秀吉の印
14 | 5 荒木新右衛門所持の書札
14 | 6 野間鹿蔵屋敷の南堺より揚羽蝶紋入りの古瓦を掘り出す事
14 | 7 城内松ノ丸下より揚羽蝶紋入りの古瓦を掘り出す事
14 | 8 ある家の宛にみえる揚羽蝶紋の事
14 | 9 袋川の旧図
14 | 10 美濃龍徳寺安置の長久手戦死者の位牌
14 | 11 池田勝入・之助の死を悼む秀吉の書状
14 | 12 池田信輝、荒尾美作の智となる事
14 | 13 長久手合戦で池田勝入討死の事
14 | 14 大坂の陣に関する池田忠継の逸話
14 | 15 池田忠雄に関する逸話
14 | 16 池田光仲に関する逸話
14 | 17 清源寺(池田綱清)と紀伊頼宣の逸話
14 | 18 力士生月鯨吉の大小暦
14 | 19 越前池田氏に関する書状
14 | 20 荒尾家より国目付への答書
14 | 21 荒尾家より国目付への答書
14 | 22 池田忠継軍記
14 | 23 池田輝政夫人良正院の事
14 | 24 中村氏断絶、伯耆を三人に分領の事
14 | 25 徳川家光上洛の際大名方供奉の次第
14 | 26 寛永年中江戸に辻番・巷門を置く事
14 | 27 慶長十八年切支丹宗門禁制
14 | 28 慶長・元和期の徳川將軍家の動向
14 | 29 徳川家康より池田家へ初めて判物を賜る記録
14 | 30 関ヶ原御陣中之御条目
14 | 31 大坂御陣中御条目
14 | 32 大坂御陣中制札

- 14 | 33 松平石見守(輝澄)領地没収の覚
- 14 | 34 福島左衛門大夫(正則)改易の事
- 14 | 35 藤田能登守下知状
- 14 | 36 元和二年撰銭の高札
- 14 | 37 明暦元年銭売買の高札
- 14 | 38 元和二年雜事高札
- 14 | 39 京極丹後守(高国)領地没収の事
- 14 | 40 癸亥江戸鑑
- 14 | 41 御小姓組等三分一御番御免の事
- 14 | 42 寛永年中の巡見使の事
- 14 | 43 有徳院(徳川吉宗)日光社参につき法度
- 14 | 44 臼井十太夫村山越中を討ち取る時の落書
- 14 | 45 気多郡鹿野の故事来歴
- 14 | 46 江戸の楼船の事
- 14 | 47 「百人一首一夕話」抜粹
- 14 | 48 大坂の十三才の少年即席で文を作る事
- 14 | 49 高草郡三熊村出土の古銭
- 14 | 50 ハイタンという奇器の事
- 14 | 51 美濃国不破関の事
- 14 | 52 天保十四年白氣出現の勘申
- 14 | 53 気多郡鹿野幸盛寺の釣鐘の事
- 14 | 54 気多郡山宮村井村覚兵衛家の由緒
- 14 | 55 御種人參の由来
- 14 | 56 「因幡志」遺稿の覚書
- 14 | 57 明暦の大火後の江戸城普請の事
- 14 | 58 十一才で「二十一史」に通じる奇童の事
- 14 | 59 天保十四年二月の彗星の事
- 14 | 60 天保十四年御用金納付の大坂町人の書上
- 14 | 61 天保十四年大坂町人への御用金令
- 14 | 62 「海外新話拾遺」彗星出現舊廷海上書の事
- 14 | 63 布施屋形御台所の事
- 14 | 64 武田豊前守家来田原何某の事
- 14 | 65 天正十年山名豊国興行百韻
- 14 | 66 玄忠寺八景

- 15 | 1 阿蘭陀渡りの駱駝の事
- 15 | 2 江戸城西ノ丸火災の事
- 15 | 3 疫病流行等を伝える天保六年の書状
- 15 | 4 奥州二本松山崩れの事
- 15 | 5 文化十二年諸国洪水の事
- 15 | 6 大坂下り女足芸の事
- 15 | 7 天保八年大飢饉等を知らせる江戸からの書状
- 15 | 8 文政六年紀州一揆の事
- 15 | 9 武州豊嶋郡内藤新宿の夫婦磔の事
- 15 | 10 松平安芸守領分洪水の事
- 15 | 11 天保元年越後国大地震の事
- 15 | 12 法美郡法花寺の城主山田安芸守娘の事
- 15 | 13 寛政の改革の落書・狂歌
- 15 | 14 江戸永代橋掛け直しにつき渡り初めの事
- 15 | 15 文化十二年小倉藩御家騒動の事
- 15 | 16 天保十三年仙台中儉約の事
- 15 | 17 近江湖水の大鯰、紀州旅侍の風説
- 15 | 18 天保六年江戸護持院河原の仇討ちの事
- 15 | 19 江戸護持院河原の仇討ちの事
- 15 | 20 水野忠邦再退任の戯文
- 15 | 21 弘化三年越前国大風雨の事
- 15 | 22 弘化三年江戸の女髪結遠島となる事
- 15 | 23 山城国小泉村万平長命の事
- 15 | 24 飯田潤輔長命の事
- 15 | 25 西丸留守居鈴木権太郎老衰、親は壮健の事
- 15 | 26 天保七年奈良春日大社の神木枯れる事
- 15 | 27 大坂堂島の医師杉本逸齋長寿の事
- 15 | 28 石清水八幡宮の神馬御告げの事
- 15 | 29 住吉大明神の白馬骨と皮になる事
- 15 | 30 撰津多田御廟等鳴動の事
- 15 | 31 オランダへ渡った遊女から母への書状
- 15 | 32 天保七年江戸外神田花房町の仇討ちの事
- 15 | 33 文化九年肥後国の仇討ちの事
- 15 | 34 弘化三年江戸護持院河原の仇討ちの事

- 15 | 35 熊本の力士大空武左衛門の事
15 | 36 力士生月鯨太左衛門の事
15 | 37 加州木屋藤右衛門異国と交易につき御仕置の事
15 | 38 異国船渡来につき触書
15 | 39 弘化四年肥後国天草郡一揆の事
15 | 40 弘化二年とうもろこしに関する奇談
15 | 41 弘化四年信州大地震の事
15 | 42 オランダへ渡った遊女から母への書状
15 | 43 明和元年朝鮮通信使殺害につき従事官・副使の書簡
15 | 44 安永三年雲州軽尾浦へ朝鮮人漂着の事
15 | 45 東海道戸塚宿焼餅坂の仇討ちの事
15 | 46 江戸浅草天王橋の仇討ちの凶
15 | 47 嘉永六年江戸浅草御蔵前天王橋の仇討ちの事
15 | 48 嘉永七年大坂大津波の事
15 | 49 嘉永七年浪花大地震見聞記
15 | 50 嘉永七年大地震相撲取組